



鹿児島県護憲平和 フォーラム情報



NO—187 2025 年 12 月 1 日

発行：鹿児島県護憲平和フォーラム Email:info@k-peace-forum.org
連絡先：鹿児島市鴨池新町 5-7 TEL 099-252-8585 FAX099-258-4560

高市政権発足と反戦平和運動

代表 平井 一臣

日本政治史上初の女性首相として注目を浴び発足した高市早苗政権。発足時の内閣支持率は極めて高い。高支持率になった理由としては、①史上初の女性首相への期待、②就任早々の首脳外交の演出効果（トランプ米大統領の隣ではしゃぐ首相の姿は、良し悪しは別として、かなりのインパクトを与えた）、③財政規律よりも経済刺激策を重視する経済政策への期待、といった点が考えられる。しかし、高支持率は今後の政権の安泰を保障するものではない。実は、内閣発足時に高支持率だった歴代内閣の多くが短命に終わっているのである（田中角栄内閣、細川護熙内閣、鳩山由紀夫内閣等）。

周知のとおり、高市内閣は少数与党内閣である。しかも、1999 年以降ずっと自民党の連立相手だった公明党が離脱し、その代わりに日本維新の会を新たな連立相手になった。自公連立は緊密な選挙協力とセットであったが、自民党と日本維新の会の間では、そうした緊密な選挙協力は不可能だろう。この新たな連立が持続的・安定的なものになっていく可能性はそれほど高くはないように思う。高市政権は極めて脆弱な政権基盤のうえに辛うじて成り立っているのである。

高市首相は、政権基盤の弱さを覆い隠すために、国民世論の支持をテコにして難局を乗り切ろうと

しているかに見える。国内政策においては、第二次安倍政権の成功経験をなぞるように「サナエノミクス」というスローガンを掲げて日本経済の復活を訴える。アベノミクス同様、実際の経済効果がどうなのか、とくに急激な物価高と格差問題に対して有効な手立てがなされるのかは分からない。実態よりもムード作り、なのである。

一方、対外政策においては、かつての安倍政権を支え、近年参政党や保守党に奪われたと見られる岩盤保守層を意識した強硬で前のめりの姿勢を示す。「台湾有事」に対する存立危機事態発言がその典型である。国民に浸透しつつある中国脅威論に便乗し、ボクシングに例えれば、いきなりファイティングポーズをとって喝采を浴びようとする。観客受けを狙った言動は、中国は対日姿勢を硬化させるだけである。戦略なきその場限りの外交が展開され、それに世論も拍手喝采を送るという悪循環が始まっている。非核三原則の見直しまで突き進もうとする政権に対してブレーキをかけることができるのかどうか。今まさに戦後日本の反戦平和運動の真価が問われている。



2025年鹿児島県原爆被爆者 慰霊祭報告

秋晴れの清々しい風が吹く10月26日、緑に囲まれた城山の麓、照国神社横にある鹿児島県原爆被爆者慰霊碑の前で、2025年の慰霊祭が執り行われました。

はじめに、慰霊碑に向かい参加者全員で、黙とうを捧げました。

次に、鹿児島県原爆被爆者協議会の西上床 キヨ子・会長が「被爆者、二世、関係者の皆さまご臨席のもと、今年もこうして慰霊祭を行えることを意義深く思っています。『二度と被爆者をつくらせない』『核兵器廃絶』の想いを志なかばで悔しい思いで逝かれた先輩方の努力で、去年、ノーベル平和賞をいただきましたが、いま世界中を見渡しても核兵器の脅威も戦争もなくなっていない。

今年、被爆80周年ということで、語り部の活動が全国的に行われました。私も県内外の8カ所を回り、約600人の参加者に被爆の実相を語りました。どこへ行っても『はじめて聞いた。感動した』との意見をいただきました。でも逆なんです。私の方が『感動と勇気』をたくさんもらったのです。展示された被爆のパネルを見て学ぶことも大事ですが、やはり被爆者自身の語りには重みがあります。あと、そう遠くない未来に、実相を語れる被爆者はいなくなります。私たち被爆者がいなくなる年月よりも、皆さんの頭上に核兵器の脅威が迫っていることを考えてください。高校生平和大使の子どもたちが『微力だけど、無力じゃない』という言葉を残しています。これから一人一人が、核兵器禁止に向けて何ができるかを考えて行動することが大事だと思います。唯一の被爆国の日本政府が、核兵器廃絶に反対していることに怒りを感じます。今年の始良伊佐ブロックの被爆80周年の平和行進に参加して各市町の長に、政府に兵器禁止条約に賛成し、オブザーバー参加の要望書を提出しました。先輩の岡本米子さんは、100歳を過ぎてもなお病床にありながら取材活動を続けています。本当に、頭が下がります。私は、あとどれ位活動できるか分かりませんが『核と人間は、共存できない』を胸に、できることをやりながら活動していきたいと思います。核のない、美しい地球を未来の子どもたちに残せるよう努力していきます。本日は、ありがとうございました」と、あいさつしました。

次に、原水爆禁止鹿児島県民会議とAコープからのメッセージが読み上げられ、白い菊の花を献花し、慰霊祭を終了しました。



第62回全国護憲大会開催!

鹿兒島ブロック護憲平和フォーラムは、平和憲法のもと、武力で平和は守れないことを基本に、護憲・平和・脱原発の取り組みを進めています。今年の「憲法理念の実現をめざす第62回全国護憲大会」は、神奈川県横浜市で、11月8日（土）～10日（月）まで開催されました。鹿兒島ブロック護憲平和フォーラムからも参加し、全国の仲間たちと学びを深めました。

8日、オープニングとして、横浜中華学校校友会国術団による「中国獅子舞」とトラジの会による韓国・朝鮮民謡の「トラジ」が披露されたのち、開会総会を開催しました。染裕之・実行委員長（平和フォーラム共同代表）から主催者あいさつ、現地実行委員長・福田護（神奈川県労組会議議長）が開催地からの歓迎あいさつを行いました。続いて、社会民主党、立憲民主党、連合から連帯あいさつがありました。そして、谷雅志・事務局長が大会基調案を提案し、今回の護憲大会の意義が、全体で確認されました。最後に、開会総会まとめ挨拶を現地実行委員会実行委員長代行・蓼沼宏幸が行い、開会総会は終了。全国から1100名の参加があり、熱気にあふれていました。



9日は、「外国人の人権確立、排外主義に抗して」「混迷する世界秩序、憲法理念の実現に向けて」「多様な性を認め、誰もが尊重される社会を求めて」「女性の権利とジェンダー平等の実現に向けて」「戦後80年の歩みとともに考える日本国憲法」の5つの分科会を開催し、それぞれのテーマでの問題提起と質疑応答が行われました。分科会は、「戦後80年の歩みとともに考える日本国憲法」に参加しました。国家の統治機能を制限して、国民の人権を守るものが憲法。今の改憲論は、「憲法の意味を全く理解していない」という発言に、同感でした。また、解釈改憲で、集団的自衛権を容認したり、実質改憲で、軍事費を増額したり、日本政府は、「法の支配」を基軸と言いつつ、全く真逆な事をしていると実感しました。

10日の閉会総会では、特別報告の後、谷事務局長から3日間全体の内容についてのまとめ報告を行われました。続いて、「遠藤三郎賞」の授賞式。護憲・平和運動に貢献された個人・団体を表彰する「遠藤三郎賞」は、「坂井市勤労者協議会」（福井県）、「戦争への道を許さない女たちの会」（高知）に贈られました。次回の第63回大会開催予定地が福岡県であることが発表され、福岡より決意表明後、大会アピール案が提案され、全体の拍手で確認しました。

参議院選挙では改憲勢力が3分の2以上を確保しました。憲法をめぐる状況、そして国内外の情勢は決して安心できません。非常に危険な状態にあります。私たちの職場・地域でのとりくみがよりいっそう大切になっていることを認識し、鹿兒島県護憲平和フォーラムとしても、憲法理念に基づいた平和な未来を切り拓くために、全力を尽くしていきます。

奄美ブロック取り組み

自衛隊統合演習「中止」を決議

国際反戦デー奄美地区集会総決起集会

奄美地区では、毎年10・21の「国際反戦デー」には、「奄美の自然と平和を守る郡民会議」主催で、総決起集会を開いています。この時期、奄美付近に秋雨前線が出来る候ですが、今年も開始時間17:30の一時間前から雨が降り出しました。集会は、「奄美復帰記念の名瀬小校庭・石段」前で行うことになっていましたが、急遽、奄美市交流センターに場所を移し、中心市街地デモ行進は取りやめにしました。



集会は、開会あいさつで、力武 誠 議長（鹿教組奄美支部長）が、教職員組合が掲げるスローガン『教え子を再び戦場に送るな』を挙げ、「私たちは子どもたちに戦争のない未来を残す責任がある。先人たちが無血で（奄美群島の）日本復帰を成し遂げた事実を今こそ学ぶべき」と訴えました。

その後、奄美群島の「平和・環境・人権」問題をめぐる基調報告、労働組合、政党関係、市民団体の代表者らの決意表明が行われました。集会の後半に「平和憲法を守り、平和運動を前進させる」とする宣言文と「自衛隊統合演習」の奄美群島での訓練中止を要請する決議文を満場一致（70名）で採択しました。

最後に、議長の『奄美に敵基地攻撃武器を配備するな』『世界から戦争をなくそう』のシュプレヒコールを繰り返して集会を締めました。

翌日22日、前日の国際反戦デーで決議した「自衛隊統合演習中止を求める要請書」を、小泉進次郎防衛大臣、奄美駐屯地司令、瀬戸内分屯地司令へ提出しました。

奄美駐屯地前では、9:45からミニ抗議集会を開催しました。今回の自衛隊統合演習では、「訓練時間帯は島民には告知されず、秘密裡に軍事訓練を強行するのは文民統制の面から疑念が生じる」などと主張しました。その後10:00に奄美駐屯地一等陸尉へ手渡しました。また、昼13:30には、瀬戸内分屯地に出向き、中止要請書を提出してきました。奄美で頻繁に行われる、軍事・生地訓練が、金輪際なくなることを切に希望するものです。

鹿児島ブロック取り組み

12.8「不戦を誓う日の集会」を開催します。是非ご参加ください！お待ちしております！

日 時：2025年 **12月6日(土)** 午前10:00～

場 所：鹿児島・県民交流センター大研修第2

講 師：谷 雅志（たに まさし）さん 原水爆禁止日本国民会議事務局長